

令和2年度 第2回 ぶんきょう歌壇・俳壇 作品発表

歌壇

寺尾 登志子 選

特選

思い出は幾つもあった秘めながら未来の記憶を刻みゆく今

小石川 堀口 恵子

子らが皆自立をしたと添へられしシングルマザーの教へ子の文

千駄木 伊藤恵津子

炎昼の道に細りしみみずあり病か老いか跨ぎ越しつつ

千石 菊地 正矩

入選

「涼風が吹いて来るような柄だね」と言いし友ありブラウスを出す

向丘 高野 伸子

鬼灯市、隅田川の花火のなきままにお江戸の町に秋の風立つ

本駒込 唐木よし子

老いるとは四面が壁に囲まれて存在感を蝕むことだ

音羽 黒坂 進

群青の夜空に満月輝いて心を洗い地球洗って

白山 長濱 晴子

梅雨の午後寺の門前猫の居て一人と一匹雨宿りする

小日向 内野 仙也

織りや柄色さまざまな手作りのマスクは令和のファッションつくる

千駄木 上杉紀世子

楠の木の里のホームに住み馴れて朝の散歩は新緑の中

大塚 小出風沙子

俳壇

佐怒賀 正美 選

特選

ウエルテルの悩みも泡に生ビール

本郷 町田 菊男

夜濯ぎやひとり愛子がたどり読み

本駒込 横塚 敏子

木簡に役人臭や桐の花

向丘 丸岡 正児

入選

西日浴びシルエット行く肩車

千石 菊地 正矩

コロナ禍の長き電話や梅雨深し

小石川 中野千鶴子

蛍の夜六十年を妻と生き

千石 大石 坦

風鈴の音や硯の海は風ぎ

大塚 奥山 興悦

霧多布わたすげ穂波北方へ

大塚 奥山 博子

夏の日に肌に感じる風の声

白山 廣田祐諒(中1)

川沿いに光広がる蛍の会議

白山 廣田七海(小5)